

## 「政策」と「候補者の見た目」の要素が投票選択に与える影響

情■■■■ 山本 薫  
指導教員 宋 財沄

### 1 研究目的

本稿は、19 歳から 79 歳を対象とし、有権者が候補者選択の基準について、サーベイ実験を通じて実証的に明らかにすることを目的としている。選挙での投票という行為では、自分の政治的考えを表明するための重要な機会である。2016 年の衆議院選挙より、制度が改正され、有権者の年齢が従来の 20 歳から 18 歳に引き下げられることが決定し、若者が政治的に「正しい」判断が可能なのかについても論点が挙げられている。その中で、この論点に対し、10 代と 20 代の違いに注目して、「候補者見た目」と「政策」の要素が投票選択に与える影響についてサーベイ実験を通して明らかにし、10 代は、候補者の見た目が「若い」場合においてのみ、自身の利益と合致する候補者に投票するが、20 代後半になるにしたがって候補者の見た目とは無関係に、自身の利益に合致する候補者を選択するといった傾向が示された結果となった（秦 2018）。しかし、秦（2018）は「見た目」刺激の妥当性に問題がある。秦（2018）は、高齢者のイラストのみ、顔が陰しく、印象の悪い笑顔に見受けられる。その結果、回答者に与える効果として、年齢的な要因ではなく、顔つきが候補者選択の際に影響を与える可能性が高い。したがって、本稿では若年、中年、高齢の男女 2 パターンのイラストに全て印象の良い「笑顔」が見受けられるイラストを用意し、秦（2018）と同様のサーベイ実験を行い、若者ほど「見た目」を重視して投票選択を行うのか、または妥当性のある「見た目」であれば、「見た目」を重視して投票選択を行わないのではないかという疑問について、それに加え、有権者は正しい政策の選択が可能であるのかについて、本稿では明らかにすることを研究目的としている。

### 2 研究方法

サーベイ実験では、図 1 に記載する 6 つのイラスト 5 つの公約を組み合わせた 30 種類の選挙候補から無作為に 5 つ提示し、その中から「誰が若者のための政策を掲げているか」と「誰に投票したいか」を尋ねた。公約の内容として、若者向けである奨学金公約や、若者減税公約、その他年齢に応じて必要が生じるであろう、経済政策公約、社会保障公約、改革公約を用意した。また党派性の影響が生じないように、全て無所属で統一し、氏名は記号の形で表示した。



図 1. 6 つのイラスト

### 3 研究結果

図 2、図 3 は線形回帰分析から得られた推定値を全体と年齢層別にまとめたグラフである。回答者が無作為に候補者を選ぶ場合、各選択肢が得られる確率が 20% (0.2) であるため、推定値が 0.2 を超えると「選択されやすい」とできる。「誰が若者のための政策を掲げているか (図 2 の三角)」では、候補者の年齢と選択の間に統計的に有意な関係は確認されなかった。これは若年層の回答者に限定しても同様である。つまり、有権者は若い候補者ということを経由して「若者のための候補者」とは認識するとは言えず、これは秦（2018）の結果に反するものである。唯一、統計的に有意な関係が確認された見た目要因は候補者の「性別」であり、若年層の回答者のみにおいて確認された。男性候補者が 0.219 ポイント、女性候補者が 0.181 ポイントで、

男性の候補者を「若者寄りの候補者」と選択しているが、その効果量は小さい。「若者のための候補者」を選択する基準は候補者の政策であり、これは全年齢において共通する。「若者減税」と「奨学金」は正、その他の政策は負の推定値が得られた。つまり、有権者は見た目よりも政策の中身で、その候補者が掲げている政策を判断することが分かる。

また「誰に投票したいか(図2の丸)」の場合、投票選択に影響を与える見た

目要因は候補者の年齢のみだった。具体的に、高齢者の候補者が選択される確率は20%より低い。ただし、若年層の回答者に限定した場合、このような傾向は観察されない。つまり、中年層以上の回答者のみにおいて高齢の候補者が好まれない。候補者が掲げている政策は投票選択に最も大きい影響を与える。若年層の回答者は約54.8%の確率で「若者減税」を掲げている候補者を選択した。一方、中年層では経済政策が最も高く(約23.8%)、高齢層では社会保障が最も重視された(約35.9%)。以上の結果をまとめると、有権者は投票選択において見た目よりも政策を重視し、ライフサイクルに合う政策を重視することが分かった。

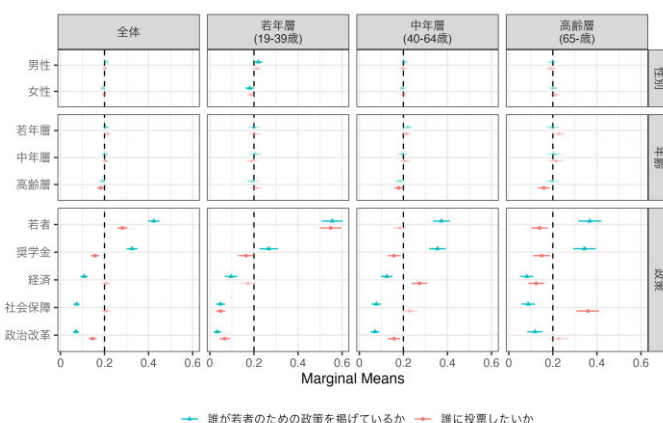


図2. 推定結果

#### 4 結論

本稿では、既存の研究(秦 2018)が抱えている限界(「見た目」刺激の妥当性)を克服した上で、秦(2018)と同様のサーベイ実験を行った。分析の結果、候補者の性別や見た目でなく、候補者がどのような政策を掲げているかが投票行動において重要な要因となることが明らかになった。「誰が若者のための政策を掲げているか(応答変数1)」も、「誰に投票したいか(応答変数2)」のいずれも同じ結果が得られた。唯一、影響が確認された見た目要因は年齢であり、高齢候補者の選好は低い。また、回答者の年齢で層化した分析でもほぼ同様な結果が得られている。ただし、投票選択における高齢候補者の不人気は若年層の回答者においては確認されなかった。

本稿では秦(2018)と同様のサーベイ実験を用い、世論調査を実施したが、回答者の年齢が19歳から79歳と幅広い事が課題として挙げられる。秦(2018)では16歳から29歳を対象としており、「非」有権者も含まれている。つまり、分析に使用されるサンプルのフレームそのものが異なるため、結果が異なっている可能性も大いに生じる。したがって、本研究の結果を既存と直接比較することは困難である。より厳密な比較をするためには、「見た目」刺激の妥当性を確保した上で、サンプルフレームを揃える必要があろう。しかし、本研究は日本の有権者「全体」において、「見た目」と「政策」が投票行動にどのような影響を与えるかについての新たな知見を提供する。

#### 参考文献

秦正樹. 2018. 「若年層における候補者選択の基準—「見た目」と「政策」に注目したサーベイ実験より—」『公共選択』70: 45-65.